

〈表紙〉

論文種別        教育・研究活動記録

題目（和文・英文）

- 1    スポーツを通じて人々の繋がりを深め、成長と挑戦を支える教育
- 2    Education that Deepens Connections and Supports Growth and Challenge Through Sports
- 3

全ての著者名及び所属機関（和文・英文）

井上陽    Yoh INOUE

筑波大学人間総合科学学術院および鹿屋体育大学大学院体育学研究科・大学体育スポーツ高度化共同専攻

Joint Doctoral Program in Advanced Physical Education and Sports for Higher Education,  
Graduate School of Comprehensive Human Sciences, University of Tsukuba, and Graduate  
School of Physical Education, National Institute of Sports and Fitness in Kanoya

連絡先（メールアドレス）

[yohinoue13@gmail.com](mailto:yohinoue13@gmail.com)

1

## 〈本文〉

2

3 本稿は、筑波大学と鹿屋体育大学による博士課程・大学体育スポーツ高度化共同専攻の  
4 必修科目として開講された2024年度「大学体育論」全10回のうち、木内敦詞教授担当の  
5 7～10回目の授業で作成したティーチング・ポートフォリオ・チャート(栗田・吉田, 2021)  
6 およびその後レポートとしてまとめたティーチング・ステートメントを整理し、「簡易型  
7 のティーチング・ポートフォリオ」として報告するものである。本稿では、東京都市大学  
8 FD推進センター(2020)「ティーチング・ポートフォリオ成果報告書」における都市大型  
9 ティーチング・ポートフォリオに倣い、「はじめに、1.責務、2理念、3方法、4成果、5目  
10 標、おわりに」の枠組みで執筆する。以下では、ティーチング・ポートフォリオをTP、テ  
11 ィーチング・ポートフォリオ・チャートをTPチャート、ティーチング・ステートメント  
12 をTステートメントという。

13

### 14 はじめに

15 現在、筆者はスポーツマネジメントおよびスポーツの社会的影響を専門とする研究者と  
16 して活動している。特に、大学が主催するスポーツイベントや、地域社会との連携を通じ  
17 た社会的価値の創出に焦点を当てており、このポートフォリオでは、ティーチングとは  
18 異なるスポーツマネジメントの視点から、自身の活動とスポーツマネジメントの実践を題  
19 材として執筆している。読者の皆さまには、この内容が、スポーツを通じた新しい学びや  
20 視点の広がり貢献することを願うものである。

### 21 1. 責務

22 筆者はスポーツマネジメント分野における教育・研究を通じて、学生が理論と実践をバ  
23 ランスよく学び、多様な社会的課題に対応できる力を育むことを目指している。これまで  
24 にはスポーツアドミニストレーターとして筑波大学体育スポーツ局の「スポーツが変われ  
25 ば、大学が変わる」の授業運営や大学主催のホームゲームを学生と共に企画・運営し、大  
26 学スポーツと地域社会との連携をテーマにした実践型の学びをしてきた。また、大学スポ  
27 ーツを対象とした研究や学内の組織マネジメントに関わる中で、体育スポーツ部活動関連  
28 の教職員と連携し、コミュニケーション能力や運営スキルを強化するとともに、コーチ

1 グに関する専門知識と教育能力の向上に努めている。今後はこれらを通じ、学生に対して  
2 大学スポーツの社会的価値を理解・評価する力や実務的なマネジメントスキルを提供し、  
3 スポーツマネジメント分野における即戦力となり、持続可能な社会に貢献する人材の育成  
4 を目指している。

5

## 6 2. 理念

7 筆者が教育活動において大切にしている価値観は「挑戦・繋がり・感謝・バランス」で  
8 ある。この4つの柱を基盤に、学生たちが自身の可能性を最大限に引き出し、自らの人  
9 生を豊かにする力を育むことを目指している。コーチング哲学として掲げている「自分史  
10 上最高の自分をアップデートし続けること」をモットーに、学生一人ひとりが学び続け、  
11 成長を実感できる環境を提供することを心がけている。

12 筆者が信じるスポーツの力は、人々にエネルギーを与え、前向きな気持ちを引き出すこ  
13 とである。この力を最大限に活かすことで、多様な価値観を持つ人々が共生し、個々の個  
14 性が輝く社会を実現する一助となると考えている。そのため、教育活動を通じて以下の資  
15 質を持つ人材の育成に取り組んでいる。

### 16 1. ワクワク・ドキドキする感情を大切にできる人

17 学びや挑戦に喜びを見出し、物事に情熱を持てる心を育む。

### 18 2. 素直に学び、実践し続ける人

19 新たな知識や経験を柔軟に吸収し、それを行動に移す姿勢を養う。

### 20 3. 他者との関係性を育む力を持つ人

21 人との繋がりを重視し、共に学び、成長できるコミュニケーション能力を磨く。

### 22 4. 自分で考え、選択できる「自分軸」を持つ人

23 他者からアドバイスを聞き入れながらも、自ら目標設定を行い、情報を取捨選択  
24 しながら意思決定していく決断力を養う。

### 25 5. 困難を乗り越える力を備えた人

26 挫折や課題を成長の糧と捉え、乗り越える粘り強さを育む。

1 自身の教育活動を通じて、スポーツがもたらす出会いや経験が学生の人生に豊かさを与  
 2 えることを伝えたいと考える。そして、マルチなスポーツ経験を通じて自分自身や異なる  
 3 価値観を持つ他者を尊重し、互いに支え合うことで、スポーツに関わるすべての人のウェ  
 4 ルビーイングを高める循環を生み出すことを目指している。

5 さらに、この理念や目標に共感してくれる仲間を増やすことで、持続可能な仕組みを共  
 6 に創り上げていくことを志向しており、学生だけではなく、教職員や地域社会と連携しな  
 7 がら、新たな挑戦や価値創造を実現する場を広げていくことを目指している。スポーツを  
 8 通じた教育の可能性を最大限に追求し、未来を担う人材の育成に尽力する所存である。

9

10 図表挿入部

11

### 12 3. 方法

13 SROI (Social Return on Investment; 社会的投資収益率、以下 SROI) (Social Value  
 14 International, 2022) を用いた大学スポーツの社会的価値評価を中心とした研究を行  
 15 いながら、その知見を大学が主催する「筑波大学ホームゲーム TSKUBA LIVE!」(以下大  
 16 学主催 HG) や大学と企業・自治体が連携する e-sport イベントの企画・運営に応用し、実  
 17 務的な組織マネジメント能力の向上を目指している。また、大学スポーツでのマネジメン  
 18 ト人材は、指導者との円滑なコミュニケーションも重要であるため、スポーツ指導者とし  
 19 ての専門性も深めるべく、コーチング理論の実践や学びを重ねています。以下に具体的な  
 20 方法を記す。

21

#### 22 ① 大学スポーツの社会的価値評価についての専門性を磨く

##### 23 ○継続的な学習と人間関係の構築

24 ・筑波大学体育系および研究室を軸に、国内外での専門家とのネットワークを構築。

- 1 ・SROIに関する最新の研究成果やスポーツ科学の知見を収集し、変化に柔軟に対応する
- 2 力を養う。

### 3 ○論文投稿

- 4 ・日本の大学スポーツでのSROI調査の応用方法を検討し、一般化する一助となることを
- 5 目指し、博士論文に取り組む。

- 6 ・SROIに関するレビュー論文や原著論文を執筆し、成果を発信する。

### 7 ② 実務的な組織マネジメント能力の開発

#### 8 ○データ収集と分析結果の活用

- 9 ・大学主催HGでSROI調査を実施し、収集したデータを活用し、運営の課題解決に寄
- 10 与する提案を行う。

- 11 ・分析結果をチームリーダーやスタッフに適切に共有し、運営組織内の円滑なコミュニケ
- 12 ーションを促進する。

#### 13 ○e-sport イベントのプロデュースサポート

- 14 ・デジタルコンテンツを取り扱う企業に所属し、大学や自治体との連携プロジェクトの企
- 15 画運営を通して、プロジェクトマネジメント能力、リーダーシップを向上させる。

- 16 ・プロジェクト関係者との関係性を深め、大学主催イベントへ知見を還元する。

### 17 ③ コーチングに関する専門的知識と実践的教育能力の向上

#### 18 ○理論の学習

- 19 ・グローバルスタンダードな視点で最新のコーチング技術やスポーツ医科学を学習する。

- 20 ・筑波大学が持つ体育スポーツに関するノウハウや指導者と交流できる環境を活用し、競
- 21 技横断的な専門知識を吸収する。

1 ○テニスコーチとしての実践的指導

2 ・日本スポーツ協会が推進しているプレーヤーズセンタード（松尾， 2021）な指導とア  
3 メリカの NPO 法人 Positive Coaching Alliance が提唱しているダブル・ゴール・コーチ  
4 ング（ジム・トンプソン， 2021）を取り入れ、対象者の競技目標と人生目標を統合的に  
5 支援し、その場に関わる全ての人が高まるポジティブな関係性を築く。

6 ・都立高校テニス部や大学の授業でのテニス指導において、学生がテニスを通して仲間と  
7 協力しながら課題や目標に挑戦する姿勢を育み、以下の能力を身につけることを目指す。

- 8 1. テニスの基本的技術や戦術を学び、実践する。  
9 2. 仲間と協力し、テニスを楽しむ方法を身につける。  
10 3. テニスを通じて心身の健康を保つ方法を学び、実践する。

11 ○ヨガインストラクターとしての活動

12 ・地域住民との交流を目的としたヨガクラスを展開し、地域社会の活性化に貢献。

13 ・ヨガの心身をケアする特性を活用した指導経験をテニス指導やその他の活動にも役立  
14 て、オリジナリティを育む。

15

16 以上の方法を通じて、研究、実務、教育の3つの柱を融合しながら、大学スポーツの可  
17 能性を広げ、持続可能な社会に貢献する人材の育成に取り組んでいく。

18

19 4. 成果

20 研究活動では、SROI の分析手法を日本の大学スポーツの文脈に応用した社会的価値評  
21 価を行い、論文投稿を予定している。また、大学主催 HG での調査結果を運営関係者に  
22 フィードバックし、学生スタッフから「取り組みへの理解が深まった」との評価を得た。  
23 さらに、テニスコーチの資格取得や指導活動、自主開催のヨガクラスを通じて運動習慣の

1 普及に努め、これらの活動が評価され、一橋大学で特別講師として活動を発表する機会を  
2 得た。

3

#### 4 5. 目標

5 短期目標としては、2024 年度末までに 2 本の論文を投稿予定である。2025 年度の大学  
6 主催 HG においても SROI 調査を実施し、日本の大学スポーツにおける SROI 調査手法  
7 の応用方法について検討する。また、調査結果をもとに運営の改善提案を実施し、大学ス  
8 ポーツの発展に貢献する。2026 年度には博士論文の審査及び最終試験に合格することを  
9 目標としており、これらを通じて、自身の教育理念を洗練させていくと共に指導者及び研  
10 究者としての能力を磨き、大学スポーツマネジメント分野でより大きな貢献を目指す。

11

#### 12 おわりに

13 筆者が目指すのは、今まで過小評価されている可能性のある日本の大学スポーツの社会  
14 的価値を明確にし、その可能性を最大限に引き出すことである。これまでの研究や実務を  
15 通じて得た知見を活かし、スポーツを通じて人々の生活を豊かにする仕組みを創造してい  
16 きたいと考える。そのためには、専門性の向上と実践的な取り組みを両立させ、個々の成  
17 長とコミュニティ全体の発展に貢献していく。読者の皆様におかれましても、筆者の取り  
18 組みを通じて、スポーツが持つ力や可能性について共感いただけることを願うものであ  
19 る。これからも挑戦を続け、学びと実践を通じて築いた成果を共有し、社会に還元してい  
20 くことを目指す所存である。

21

#### 22 付記

23 本 TP を作成するにあたり、メンターを務めてくださった木内敦詞先生、意見を交わし  
24 た筑波大学人間総合科学学術院および鹿屋体育大学大学院体育学研究科・大学体育スポー  
25 ツ高度化共同専攻学生のみなさまに心よりお礼申し上げます。

1

2 文献リスト

3 栗田佳代子・吉田壘：リフレクションを可視化するティーチング・ポートフォリオ・チャ  
4 ート作成講座. 医学書院, 2021.

5 栗田佳代子：大学教員の教育業績評価の方法としてのティーチング・ポートフォリオ. 大  
6 学評価研究, 19, 2020, 55-63.

7 松尾哲矢：〈特集〉JSPO は、なぜ「プレーヤーズセンタード」を提唱するのか：PART 1  
8 それは、まさに必然だった プレーヤーズセンタード推進の理由, 『Sport Japan』(日  
9 本スポーツ協会), 56, 2021(7・8), 4.

10 ジム・トンプソン：「ダブル・ゴール・コーチング-勝利と豊かな人生を手に入れるための  
11 指導法-」鈴木佑依子訳, 東洋館出版社, 2021.

12 セルディン, P：「ティーチング・ポートフォリオ作成の手引き：大学教育を変える教育実  
13 践記録」栗田佳代子訳, 玉川大学出版部, 2007.

14 東京都市大学 FD 推進センター：2020 年度ティチング・ポートフォリオ成果報告書, online.  
15 <https://www.tcu.ac.jp/tcucms/wp-content/uploads/2021/03/20210325-605c90e90d057.pdf>

16 Nicholls, J. “Social Return on Investment—Development and Convergence”. *Evaluation and*  
17 *Program Planning*, 64, (2016), 127–135.

18 Social Value International. *Standard on applying principle 8: Be Responsive*. 2022.



専門  
名前  
大学スポーツ  
マネジメント  
井上陽

作成  
目的  
今年30歳になるのでこれまでの活動の整理とこれから先の将来構想

感想  
TP、絶対自分に必要だと感じた。今まで経験してきた点と点が少しずつ繋がってきているように感じた。先駆者の方達の経験を聞き、これからのビジョンを明確にして、研究も進めていきたいと感じた。

日付  
2024/06/08

責任  
兄の病気やスポーツ一家ではない家庭環境で育ったことから自分がテニスをしている意味や価値についてよく考え、時には疑問を抱きながら育った。

理念  
【スポーツとまちづくり】  
スポーツは人々にエネルギーを与え、気持ちを前向きにする。  
【ヨガインストラクター・テニスコーチ】  
スポーツに関わる人たち全員のウェルビーイングを高める。

目標  
【大学スポーツマネジメント】  
・2027年3月の修了までに論文を5つ書く。  
・海外の論文投稿誌へに投稿に挑戦する。  
【教育者】  
多様な価値観を持つ人が共生し、個性を輝かせることができる社会を牽引していく新しいリーダーになる。同じ志を持つ仲間を増やす。リーダーとなる人を育てる。

①筑波大学体育スポーツ局スポーツアドミニストレーター  
(2024年3月退職)  
・学生支援、学内連絡  
・企画・運営  
・キャリアセミナー  
・スポーツイベント  
・AT/S&C派遣・養成体制の構築  
・授業計画・運営

方針  
【大切にしている価値観・コーチング哲学】  
・挑戦・繋がり・感謝・バランス  
・自分史上最高の自分をアップデートし続ける  
学生自身が考え、自身の選択で困難を乗り越え、成長していくための自分軸を育てる

自主性を持ち、主体的にテニスの練習に励み、テニスを通しての出会いや経験が学生の人生を豊かにできるように伝えたい  
スポーツに関わる人たちのクリーンで良好な関係性を築く  
コミュニケーションを円滑にし、様々な価値観を受容するために選手・学生・お客様とフラットな信頼関係を築く

幼少期から海外で過ごした経験やテニス関係で親から離れ、全く知らない地や知らないコミュニティによく放り込まれていた経験から多様な価値観に触れることができた。一人では達成できない目標も、他の人が持つスペシャルな能力や経験を繋ぎ、融合させると今まで不可能だったことも達成できることを学んできた。

②テニスコーチ  
(2028年～)  
・地域総合型スポーツクラブで4歳～80歳代、様々な国籍・レベルへの指導  
・高校部活動での指導  
・大学非常勤講師

【大切にしている価値観・コーチング哲学】  
・挑戦・繋がり・感謝・バランス  
・自分史上最高の自分をアップデートし続ける  
学生自身が考え、自身の選択で困難を乗り越え、成長していくための自分軸を育てる

テニスは好きよりも辛く、辞めたい気持ちの方が強かったが、社会人でテニスコーチをし、実業団でプレーを続けたことで多くのお客様に応援してもらったり、感謝してもらえた。テニスを続ける理由が自分のためではなく、誰かのためになった。今も私がテニスの練習をするモチベーションは私のレッスンを受けてくれるお客様や、応援してくれる人たちのため。

6歳から始めた競技テニスは大学2年次までずっと怪我に悩まされた。自分の限界を知らず、やりすぎたおかげで体も心もボロボロになったけど、そのおかげで自分を知るためにヨガと出会い、何事もバランスを考え調整する力がついた。

小学生の頃からスケジュール帳を使い、テニスの練習のスケジュールを組むこと、試合の申し込みをすることは自分で管理してきた。テニススクールまでの移動時間や学校の休み時間などの限られた時間で最大限集中し、宿題を終わらせ、勉強をしてきた。大学部活動では、普段、指導者がいない中での練習場所の確保やチームのスケジュールを管理し、チーム運営を経験した。全ての経験が今までの仕事や研究につながってきていると感じた。

方法  
指導する際、相手の考えや相手の意図・目標を引き出すために傾聴することを意識する

学生とのコミュニケーションを取りやすくするために親しみやすくいることを意識している

自分自身が試合に出たり、体を動かし、学び続ける

トレーニング、練習メニューの提案。食事、睡眠、ヨガ等で心と体のケアを伝えている。

AIスマートコーチ等のアプリの紹介。

様々なコミュニティに顔を出し、他の人が取り組んでいることに興味を持つ。

日本スポーツ協会テニスコーチ

健康運動指導士

ヨガインストラクター研修会

TSAセミナー

大学での指導経験を積む

挨拶 + 1 を心がけ、質問をする

オープンマインドでいる

必ず参加者全員が発言する機会を作る

個人の生い立ちや怪我、運動経験等を聞き、メモに残す

名前を覚える+とにかく呼ぶ

できないところも見せる

参加者同士の関係性を作れるよう練習の雰囲気や練習内容を工夫する

練習が効率的かつ効果的に進められると判断した場合、一緒にボールを打ったり、トレーニングをする

何か自分が相手の時間を借りて相談させてもらったことについては直接会って話す、メール、電話、SNSうまく活用する等で報告する。

他のテニスコーチのレッスンを見学し、練習メニューや指導方法を参考にする。なぜその指導を実施しているのか等ディスカッションしてみる。

参加者に振り返りの場を作り、自己分析と言語化するトレーニングを取り入れる

論文投稿

学会に参加する

テニスノートを用意してもらう(アプリでも可。とにかく記録を残す。)

③ヨガインストラクター  
(2022年～)  
・東京、つくば、山梨で定期的にヨガクラスを開催  
・ヨガとまちづくり

中国からヨガを学びに筑波に留学しているSumeiと一緒にヨガプログラムを作成する

改善・努力  
体調を崩さないよう運動・睡眠・食事を気をつけている。

研究、テニスコーチ、ヨガインストラクターを両立させるために時間の使い方を工夫している。

④研究  
・大学体育スポーツ高度化共同専攻入学(2024年4月)  
・研究計画書作成  
・SROIの調査をお手伝い

研究室のHPを作成する

成果・評価

①スポーツアドミニストレーター  
「体育スポーツ局の取り組みについて質問しやすくなった」と学生が言ってくれた。2023年3月に開催したオフラインでのeスポーツイベントの企画・運営をやり遂げることができた。

②テニスコーチ  
JSPOTテニスコーチ3の資格取得。6年前に教えていた4歳の教え子が今もテニスを楽しく続けてくれている。また同じく新入社員の際に指導していた女の子が立教大学テニス部に入部してくれた。

③ヨガ  
自主開催のヨガクラスを1年以上続けられた。ヨガの開催場所が3箇所が増え、ヨガを始める人が増えた。またテニスを新しく始める人も増え、運動を習慣化させている仲間が増えてきている

④研究  
大学体育スポーツ高度化共同専攻に入学。東京都健康長寿医療センターでの非常勤講師としても研究を開始した。